

令和7年度大学ポートレートステークホルダー・ボード 主な意見
(令和7年12月9日開催)

1. 企業の採用活動から見た大学ポートレートについて

- 採用実務を行う企業10社程度に聞いたところ、全ての企業が大学ポートレートの存在を知らなかった。現在の大学ポートレートは企業のニーズに対して使いづらい点が多い。具体的には、民間就職希望者数のような採用対象となる学生数等が分かりにくいこと、比較・一覧性が弱いこと、産学連携やインターンシップに関する窓口の情報がないことが挙げられる。
- 改善の方向性として、データガバナンスとコンテンツ戦略の抜本的改革や、ペルソナ別のダッシュボードの導入等について挙げた。中長期的には、大学での学びが将来の仕事に繋がるイメージをもてるようなウェブサイトに進化するのが望ましい。
- 採用活動においては大学情報を集約しているサイトが既に存在し、大学ポートレートの存在意義が薄い。活用方法の紹介が必要だ。例えば、化学のメーカーに対して各大学の化学系の女子学生数を調べることができるなど、短い動画で紹介する。国公立と私学のデータを合同的に扱えるプラットフォームが展開できるとよい。

2. 大学担当者から見た大学ポートレートについて

- 入学者へのアンケート調査によると、大学受験において民間の情報サイトを参照した学生は増加傾向にあるが、大学ポートレートを参考にした学生は非常に少ない。広報媒体としての役割よりも、統一的なデータベースという点で価値を出してはどうかと考えている。
- 大学ポートレート(国公立版)の公表依頼で提供される学部・研究科毎に分かれたExcel形式の調査票は、大学の体制等によってはそのままの形での使用ができない。自大学の体制に合うように編集した調査票をまず各本部に対して照会し、各本部が部局に対して照会するという2段階になっているため、作業依頼から最終的な集約までに概ね1か月程度の期間を要する。ウェブ上での入力や、CSV形式での取り込みなど、実情に応じて作業方法が選択できると、大学の負担軽減になるのではないか。
- 大学ポートレート(私学版)の更新では、実務レベルで修正を行っても、管理者権限を持つ者(親認証)が一括反映の操作をしなければ公表ページに反映されない。現在は修正したことを口頭で伝えているが、メールでログが飛ぶような仕組みがあれば便利だと思う。
- 作業における課題としては、様々な部署からの情報集約と整理に係る作業負担があり、各部署で同じような情報を取りまとめることで作業が二重化することもある。また、データの整合性の問題や、指標と実績の乖離等が発生する。集計した数字の意味を理解できるIRの専門知識を持った人材も必要である。
- 大学ポートレートの数値的な部分は見やすいと思うが、各大学の特色は定量的に測れないため、定性的な情報を閲覧者に理解いただけるようにどう掲載していくかも課題である。

3. 比較機能について

- 偏差値等の一面的な指標ではなく、多様な尺度で自分に合った大学を比較検討できるようになれば、大学での学びと企業の求めるスキルが高い精度で合致することになり、そこで教育を受けた人材は活躍の可能性が高いという目で企業側も見る。多様な尺度での比較であれば、大学ポートレートの理念と大きくは違わず、より使われるものになり得るのではないか。
- 国公立大学情報活用サイトは教職員が活用しており、Web-API 機能も自大学のシステムと接続できる可能性を感じているものの、データソースが学校基本調査に限られているため、詳細な分析には大学独自のデータを追加する必要がある。
- 比較は大学ポートレートの重要な役割だと思うが、規模や学問領域も異なるものを一律に比較することは望ましくないため、分野毎のグループで比較するなどの工夫が必要だ。
- IRの観点から大学側にも比較やベンチマークのニーズがあることが確認できたが、それは全大学を横並びにするものではなく、データの区分けや有用な比較軸を併せて検討する必要がある。

4. AI への対応について

- 国公立大学情報活用サイトのような可視化ツールを一般向けに公開してはどうか。生成AIの利用が広がる中で、信頼できる機関が収集した確かなデータを用いて、受験生や関係者自らがツールを利用できる環境が健全なのではないか。
- AIを使った検索や比較検討が簡単にできる流れの中で、ターゲット層を絞り、本当に必要な情報をどのように載せるかを検討する必要があるのではないか。
- アクセス数の減少にAIの影響も考えられるのであれば、AIが本当のことを答えているのかという、ハルシネーションにどう対応していくのかも検討課題になる。大学ポートレートが確かな情報を提供するという位置付けもできるのではないか。
- 高校の進路指導においてAIを使って働き方改革の支援を行うような業者が参入してきているようだ。AIの利用が広がっていく中で、大学ポートレートは信頼性を強く打ち出すことで活用が広がるとよい。

5. 高校生等への利用促進について

- 差別化は各大学のウェブサイト委ねつつ、数値データ等の並べ替え機能や、「この分野を見た人は他のこれらの分野にも興味がある」といった推薦機能があると、利用のしやすさにつながるのではと思う。
- 大学ポートレートの入口や検索の利便性向上は進んでいると感じたが、活用方法や効果を高校の教員や生徒にどう伝えていくかが課題だ。ショート動画などを使い、利用したときの

効果が分かり、使ってみようと思えるような工夫が求められる。

- 若い世代がどこから情報を取っているのか、TikTok 等の動画も含めて丹念に調べる必要がある。

以 上